

| | | | | |
|-----------|-------------|------|----|----|
| 講義名 | 対)専門基礎演習(人) | | | |
| 担当教員 | 綱直 優子 | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 1時限 | 授業形態 | 演習 | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 | 備考 |

主題と概要

1年生での基礎的な学修を受けて、2年生前期では大学の専門的な学修に向けての基礎を築くための演習を行います。この専門基礎演習では、具体的なテーマに基づいて、専門的な学修を進めるうえで必要となる基礎的な学修の方法を学びます。それらは、文献を読む。情報を集め・現実の人間社会を観察し・整理する。自分で考え・教員や仲間と話を通じ、それらの人々と議論する。レポートを書き、発表(プレゼンテーション)する。等さまざまな方法です。演習の内容については、テーマを複数設定しています。1年生後期に「専門基礎演習の概要」として各担当者がテーマと内容、評価方法を提示しましたので、詳細はそちらを参照してください。

到達目標

- 各演習のテーマにもとづいて、グループワーク、ディスカッションなどの協働作業を行うことができる。
- 文献講読・情報収集・調査・レポート作成・発表(プレゼンテーション)などの学習方法を身に付ける。
- 自らの志望に基づいて、研究演習Iの選択を適切に行うことができる。
- 自己の将来について考えることができる。

提出課題

詳細については担当教員が概要で示していますので、確認してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

各演習内で担当者が講評・解説します。

評価の基準

平常点、中間期、期末期のさまざまな課題によって、総合的に評価します。詳細については担当教員が概要で示していますので、確認してください

履修にあたっての注意・助言他

この演習は、2年後期から始まる「研究演習」(研究演習I・研究演習II・卒業研究)の準備演習となるものです。専門的内容とともに、演習で必要となる基礎的な方法学びますので、是非とも履修し、今後の研究活動に備えてください。

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 教科書 | | | | |
| .テキストや参考文献については、クラスを担当する教員から案内がありますので、指示に従ってください。 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

プリント資料及び参考文献

テキストや参考文献については、クラスを担当する教員から案内がありますので、指示に従ってください。

授業計画

第1回～第15回 担当者が概要で示していますので確認してください。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

| | |
|---|--|
| <input type="radio"/> ア:PBL(課題解決型学習) | <input type="radio"/> イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| <input type="radio"/> ウ:ディスカッション、ディベート | <input type="radio"/> エ:グループワーク |
| <input type="radio"/> オ:プレゼンテーション | <input type="radio"/> カ:実習、フィールドワーク |
| <input type="checkbox"/> キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | |

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で90時間(2時間×15回)、予習・復習で60時間(4時間×15回)です。予習・復習については各演習担当者が演習概要等で指示します。授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を築くための新しい社会、文化を創造することができる。人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面と心理学を応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面授業で行います。
なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、学期途中でオンライン授業に変更になることもあります。大学のポータルで情報を確認し、担当教員の説明にそって対応してください。
オンライン授業では、スマートフォンで対応できることを基本としますが、インターネットにつながるPC、タブレット等も利用可能です。カメラ付きのPC、タブレットの利用を推奨します。教材はパワーポイントのドキュメント、音声ファイル、動画でYouTubePortal「業務連絡」にアップロードします。まず、アプリとしてはSkype for Business(ビデオ会議)とRespon(出席・課題等のコミュニケーション)が利用できるようにしておいてください。これらはWebでも利用可能です。教員によっては別のアプリを使用する場合がありますが、詳細は授業内で案内します。また学内アドレス、パスワードを確認しておいてください。

実務経験の有無及び活用

備考

対面授業で行います。
なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、学期途中でオンライン授業に変更になることもあります。大学のポータルで情報を確認し、担当教員の説明にそって対応してください。